

2022年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 財津 倫子	職名 講師	学位 博士(看護学)(大分県立看護科学大学 2023年)
----------	-------	------------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
<ul style="list-style-type: none"> ・看護教育学→ ・成人看護学→ 	看護大学生、臨地実習適応感、アタッチメントスタイル 医療システム、退院調整、医療提供システム

研究課題
<p>看護教育学に関して、看護大学生のアタッチメントスタイルと実習の適応感との関連について研究を進めている。看護大学生へ対し、アンケートを実施し、分析した結果をまとめ、実習適応感については論文をまとめた。続いてアタッチメントスタイルと実習適応感の関連について調査を行い、結果を論文にまとめた。今後は、実践を行い、データを整理する予定である。</p> <p>成人看護学(急性期)に関して、入院・治療・退院・外来・地域における医療提供システムについての研究を進める予定である。</p>

担当授業科目
クリティカルケア看護学(前期:看護学科) 成人看護学演習(前期:看護学科) 看護研究(前期:看護学科) 健康教育論(前期:看護学科) 保健福祉学入門(前期:保健福祉学部全学科) 看護学(後期:栄養学科)←開講なし 成人急性期看護方法論(後期:看護学科) 成人急性期看護学実習(後期:看護学科) 看護のための臨床検査(後期:看護学科) 看護総合実習・演習(前期・後期:看護学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 クリティカルケア看護学 】4年生前期 1. 危機的状況にある患者・家族、医療従事者の倫理的課題についてのグループワーク発表では、学生同士で質疑応答ができるよう促し、理解が深まるよう努めた。 2. 認定看護師における演習においては、実際に参加し、学生が理解不足である箇所は補いながら、ともに実践し、学生の理解が深まるよう努めた。
授業科目名【 成人看護学看護過程演習 】3年生前期 <講義> 1. 事前学習の方法・病態関連図・フェイスシート・データベースアセスメント・フォーカスアセスメント・全体像・問題リスト・計画立案・評価・評価日評価とは何かを説明し、情報の整理の仕方、分析の仕方、計画立案方法、評価方法についても解説する。 <看護過程> 1. まず自分で事例を読み、考えるよう促す。その後、どの教科書のどのページに参考となることが記述されているかを示し、事例の読み方、考え方を説明し、再度分析するよう指導した。 2. 講義は行なわれたが、看護過程の展開についてグループ全員に対し再度説明を行い、全員が理解できるよう努めた。 3. グループワークでもあり、他者との意見交換の場もつくり、グループワークでの学びも深まるよう指導した。

4. 個人ファイルも作成するため、個々にできていないところの指摘もするが、できているところも伝え、前進できるよう指導を行った。

<看護技術：周手術期の看護>

1. 術直後の観察の実際をわかりやすくデモンストレーションしながら、観察の根拠やポイントを説明した。学生が、ベッド毎に別れて、技術練習を実施する際、学生のできているところできていないところをタイムリーに伝え、時には質問も交えながら、自分で考え理解しやすいようにした。または、実際に実演し、わかりやすいよう配慮した。
2. ①深部静脈血栓症の予防として、弾性ストッキング装着の実践。フットポンプの装着。②JVACの仕組みについての解説と実践。①②が学べるブースを作り、時間ごとに移動し全員が実践しながら学べるよう工夫した。

授業科目名【看護研究】3年生前期

1. 担当部分を4名の教員が講義を行い、それを受けた形でグループワークをおこなった。
2. 研究テーマの選定から、論文検索、研究計画書の作成、依頼文・承諾書・調査票の作成、英文要約、文献を整理し発表までを行った。

授業科目名【健康教育論】2年生前期

1. 理論の講義から指導案・パンフレット作成、発表までの実践を行った。
2. 2年生が対象であり、パンフレットの構成を考えることは、まだ難しいと考えた。事例を提示し、どのような項目でパンフレットを作成するかはあらかじめ伝え、その項目内容で個別性をふまえるとどのように説明をすれば相手が理解しやすいのか、相手にわかりやすくするためにはどのような工夫が必要かを、自らで考えて気づくことが出来るような授業とした。指導案を作成し、パンフレットを作成するだけでなく、指導を受ける側（患者体験）も経験させ、客観的に自己を振り返る機会（自己評価表の配布）を設けた。

授業科目名【保健福祉学入門】保健福祉学部全学科1年生前期

1. 看護領域について、そして看護研究について興味を持ち楽しく理解できるような講義内容とした。
2. 専門領域ではないと興味は半減するであろうと考え、写真を多く用い、体験談を伝えた。
3. レポートでは、看護研究をどのように感じたか、学びや気づきを問うた。提出されたレポートは、ルーブリックを使用し採点した。

授業科目名【成人急性期看護方法論】2年生後期

1. 消化器、循環器の構造と機能の説明から、その検査・治療と術前術後の看護を、パワーポイントを用いて説明する際、図や画像を用いてわかりやすく解説した。
2. レジメの重要なポイントは赤く反転させ、学生が重要な箇所を自身でチェックできるよう工夫した。
3. 課題は、そのまま3年生の前期（看護過程）につながるものとし、学びがつながるよう配慮した。

授業科目名【成人急性期看護学実習】3年生後期～4年生前期

1. コロナ禍により臨床実習が行えない施設もあったが、2グループを除き臨地実習を行うことができた。
2. 知識の上でわからなければ、どこに（教科書や参考書や事前課題）戻ればいいのかを伝え、自分で考えることが出来るよう導いた。また、質問しやすい雰囲気を作り、グループ間そして教員へもわからないことがあれば質問・確認ができるように、必ず学生に所在を伝えた。
3. 直接指導に当たる教員と毎日コンタクトをとり、各学生の目標やゴールを定め、協力して指導を行った。
4. 担当患者さんが、気になることや大学側に伝えたいことがあれば、いつでも伝えられる機会を持てるよう、担当教員に、毎日実習開始前と終了時に挨拶に伺うようお願いした。
5. カンファレンスにおけるコメントを伝える際は、まず良い点を伝えてから、注意を要する箇所をコメントするよう心掛けた。先に注意をすると、その後のコメントは頭に入ってこない様子が見受けられ、良い点を伝えてから、重要なポイントを伝えるよう努めた。
6. 実習終了後の面接においては、学生自身に出来たことと出来なかったことを考えさせ（自身で気づかない学生にはこちらからコメントする場合もある）、できなかった項目について、なぜ出来なかったのかを、ともに考えるようしている。そして、今回出来なかったことを、次の実習でできるようになるためには、具体的に何をすべきかを考え、今後の行動目標および課題を明確にした。

授業科目名【 看護のための臨床検査 】2年生（後期）

1. 担当部分を3名の教員が講義を行い、前（知識確認テスト3分）後（小テスト3分）を実施した。
2. 章が終わるごとに、国家試験問題を出題し、学生解答させることで、全員が自身の理解度を確認できる機会を必ず設けた。
3. 演習では、心電図の波形が出る人形を用い、グループごとに12誘導の装着を体験した。装着のポイントを学ぶとともに、装着される患者の気持ちも考えることができる機会を設けた。

授業科目名【 看護総合実習・演習 】4年生（通年）

1. コロナ禍にて臨地実習は行えなかったが、3年生の各論実習（学内対面）における患者役や指導する役割を担いながら、学びが得られるよう実習を組み立てた。事前課題として、3年生に指導を行う技術項目について、その目的・根拠・注意点をレポートにまとめて提出させた。ICU・OP室実習では、4年生は技術指導が行えるように事前に練習を重ね（事前に技術チェックを実施した）、教員監督のもと技術指導を行った。手術直後の観察・手術後の清拭・手術後の離床・退院指導においても事前に技術練習に取り組み知識を得て、教員監督のもと患者役や指導を行いながら学びを深めた。また、実践後の後片付けも看護師の大切な仕事であり、その体験もできるように配慮した。
2. 文献研究・ケースレポートにおいては、構成・参考文献の示し方・図や表の挿入・参考文献リストの記入方法・倫理規定などについて解説し、週に1度ゼミ日（遠隔）を設けて、完成まで指導を繰り返した。
3. レポート作成終了後、パワーポイントで（10分）発表できる資料を作成させ、発表会を開催（質疑応答5分）。相手に分かりやすく伝える資料を作成する難しさ、相手に伝わりやすい話し方、質問の仕方、質問に対する答え方等を学ぶことのできる機会を設けることで、就職してからの研究発表につながるよう支援した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護管理学会 日本運動器学会（日本整形外科 看護研究会より改名） 日本看護科学学会 日本看護学教育学会会員	査読委員(2009年4月～現在に至る)	2004年12月～現在に至る 2005年6月～現在に至る 2007年3月～現在に至る 2015年12月～現在に至る

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 財津倫子	単著	2022	日本看護学教育学会誌, 32 (1), 27-38	看護学生のアタッチメントスタイルと実習適応感の関連を検討し、個人特性に応じた学生への実習指導を可能にする視点を提示した。
高橋甲枝, 坂本未穂, 財津倫子, 大嶋満須美: ストーマ装具を装着した看護学生の生活体験からの気づき	共著	2023.3	西南女学院大学紀要, 27 (in press)	本研究の目的は、演習による模擬ストーマとストーマ装具を装着した看護学生の日常生活体験からの気づきを明らかにすることである。看護学生3年生105名を対象に装具装着を1

2022年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				日間体験後、提出された課題レポートの記述内容について質的帰納的分析を行った。 学生が患者疑似体験からストーマ造設患者の困難を知ることは、患者に共感し、患者理解の深まりとともに必要な看護を考える上で有用な体験であったと考える。
(翻訳)				
(学会発表) 看護学生のアタッチメントスタイルの傾向とその課題	単著	2022年12月3・4日	日本看護科学学会学術集会 (ポスター)	①看護学生のアタッチメントスタイルの傾向を明らかにし、その課題を提示した。 ②財津倫子

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役職名等	任期 期間等
日本運動器看護学会	日本運動器看護学会査読委員	2009年4月～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

3年生ゼミアドバイザー(2019年4月1日～継続中)

1. 学生を5クラスに分け、名簿を作成。それぞれのクラス委員長を決定後、連絡網の作成。
2. 前期及び後期に1回ずつ担当クラスメンバーに面接（対面）を実施。
3. 各論実習前に模試を対面で実施。同時にアンケート調査も実施した。
5. 11月に、保護者懇談会（遠隔および対面）を実施（COVID19禍における講義・演習・実習をどのように実施しているかを説明・模試結果報告・就職活動について）
6. 各論実習期間中に担当クラスの学生に問題があれば、その都度対応（保護者を交えての面談等）
7. 8月8日（月）各論実習前知識確認模試、1月6日（金）に実習後知識確認模試を実施。

看護総合実習（BLS 受講調整：2017年4月1日～継続中）

1. 受講料は、COVID19 の状況を踏まえ、後期の学費で追加納入（会計課へ3月に受講者名簿をメール送信した）。
2. 4月初旬に博多トレーニングセンターの担当者に連絡し、受講日の調整を行った。
3. 実習室の予約及び施設使用願いの提出
4. 受講者の名簿作成（英語記およびメールアドレスを入れたもの）
5. 知識面はオンラインでの受講を選択した（2021年度より開設される）。オンラインパートへのアクセス方法は、直接博多トレーニングセンターからメール送信されたが、アクセスできない学生については大学が対応した。
6. 技術の受講日と就職試験日と重なる学生から報告が来るため、博多トレーニングセンターへ欠席の連絡を入れた。学生には、直接トレーニングセンターで受講できる手続きについて説明した。
7. 受講日当日の9月17日（土）は、8時30分からの開始であるが、当日にBLS人形等の搬入があるため、7時から搬入が開始された。体温測定及び出欠確認は、博多トレーニングセンター（インストラクターが担当）が実施。欠席者（事前連絡あり：受験等）あり。
8. インストラクターに受講中の写真撮影の許可を得て、写真撮影を行い、ブログUPの準備を整えた。
9. コロナ禍にあり終了時、機材の消毒を実施した。

実習コーディネーター(2018年4月1日～継続中)

1. COVID19 禍における臨地実習が可能であるかを、実習病院へ必要時メールにて確認を行った。指導者会議の調整も行った。
2. 各論実習前のオリエンテーション運営（第1回）と、「個人情報取り扱いとSNS利用について」スライドを用いて説明した。さらに、手指消毒液やポシェットの配布。
3. 実習誓約書作成（学生）に向けた調整
4. 2023年度の実習病院（2病院）の実習配置を作成し調整（他大学）後、病院へ提出。
5. 2023年度の実習配置表作成。

公開講座委員（2022年4月1日～継続中）

1. 4月21日（木）第1回会議にて委員長や副委員長の選出。シニアサマーカレッジ開催が決定し、テーマは、「躍進の夏・西南の夏」に決定した。
2. シニアサマーカレッジの講師2名を学科長と協議し選出後、当人へ依頼した。
3. 10月13日（木）第2回会議にて、シニアサマーカレッジ後の振り返りを行った。